

令和5年度 中央区立銀座中学校 外部評価報告書

評価委員：堀内委員長、倉澤副委員長、中村委員、三浦委員、竹田委員

報告書作成者：倉澤副委員長

評価時期 令和6年3月

1 重点目標の評価

重点目標1について

相手の話をよく聞きよく考え、意見や考えを相手に伝える表現力をもつ

- 生徒は落ち着いて授業に取り組み、話し合い活動などにも積極的で、意欲的に学習する姿勢が伝わってくる。
- 中央区教育委員会研究奨励校として、主体的・対話的で深い学びを実現するために授業の展開を工夫するとともに、学習用タブレットを効果的に活用した授業を組織的・計画的に推進し研究を深めたことは、教員の授業の質の向上や生徒の学力向上に大きく寄与している。

重点目標2について

豊かな人間性、相手の多様性を受容する共生の心をもつ

- 通常学級と特別支援学級の交流活動が組織的に行われ、互いの良さを認め、多様性を受け入れ、思いやりの心が育てられている。
- いじめ・不登校・問題行動等の未然防止や早期発見に努めており、生徒の状況について情報を共有し対応を協議する取組が定期的に行われている。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関連機関等と連携し、個に応じた対応を組織的に行っている。

重点目標3について

強い意志と身体、基本的な生活習慣や社会性をもつ

- 様々な工夫をしながら行事を実施し、生徒が一人一人に役割が与えられ、主体的に取り組む機会が設けられている。
- インターネット、SNS等の利用、情報モラルに関する指導は、保護者の理解と協力を得て一層充実させる必要がある。
- 進路学習においては、職場体験、職業講演会、上級学校調べ等を通じて将来の進路を考える機会を設け、自己実現へむけた意欲を高めるキャリア教育が推進されている。

2 今後の改善に向けた意見

- 多様な情報があふれる中で「心と頭で考える」ことの大切さが求められている。他者の立場になって考え「共生する心」を一層育んでいく必要がある。
- ホームページや学校だよりなどの各種たよりを充実させ、学習用タブレットも活用しながら積極的に学校から生徒の活躍の様子などを発信してほしい。

3 その他の意見

- 生徒・保護者ともに学校の教育活動に理解を示し、生徒・保護者・教員の間に厚い信頼関係が築かれている。
- 生徒は自己肯定感をもって生活し、目標をもって学校の活動に取り組んでいる。